

日本医療薬学会 第 83 回公開シンポジウム開催報告書

第 83 回医療薬学公開シンポジウム
実行委員長 福土 将秀

令和 3 年 10 月 17 日（日）、札幌医科大学講堂（札幌市）において、第 83 回医療薬学公開シンポジウム（主催：日本医療薬学会、共催：北海道病院薬剤師会、北海道薬剤師会、札幌病院薬剤師会、札幌薬剤師会）を WEB 配信にて開催しました。今回、WEB 開催であったため、全国各地から非常に多くの方に参加いただきました（326 名）。

本シンポジウムでは、「コロナ禍における薬剤師の役割と地域医療連携の充実化に向けた取り組み」をテーマとして企画開催しました。

シンポジウム 1 では、「コロナ禍における薬剤師の役割」について、3 名の先生に発表いただきました。札幌医科大学附属病院薬剤部の石郷友之先生からは、「コロナ禍における病院薬剤師の役割」と題して、コロナ病棟における ICT 薬剤師の役割や COVID-19 治療薬についての情報共有と薬剤確保・管理について発表いただきました。続いて、北海道大学病院薬剤部の鏡圭介先生からは、「コロナ禍における感染制御部専従薬剤師の役割」と題して、COVID-19 治療薬使用のための適応外使用申請や運用の作成等で苦慮した点、抗体カクテル療法の最新情報を踏まえながら感染制御部専従薬剤師の役割について発表いただきました。北海道科学大学薬学部の山下美妃先生からは、「コロナ禍における薬学教育・実務実習の現状と大学の役割」と題して、薬科大学でのオンライン授業の構築と今後の課題、コロナ禍での実務実習の状況等について発表いただきました。

シンポジウム 2 では、「地域医療連携の充実化に向けた取り組み」をテーマとして、3 名の先生に発表いただきました。JCHO 札幌北辰病院薬剤部の門村将太先生からは、「医薬品情報でつなぐ地域医療連携」と題して、地域医療連携の充実化を図る上で病院薬剤師が行っていること、薬物療法の連携に関するエビデンスと今後の展望について発表いただきました。続いて、札幌医科大学附属病院薬剤部の山崎将英先生からは、「トレーシングレポートでつなぐがん化学療法における地域医療連携」と題して、自施設におけるレジメン公開や情報共有シート、がん化学療法用のトレーシングレポートや免疫チェックポイント阻害薬（ICI）シールの運用について発表いただきました。まつもと薬局の大野伴和先生からは、「在宅医療でつなぐ地域医療連携」と題して、在宅業務における薬剤師の役割と多職種間の連携、薬局に求められる機能・役割について発表いただきました。

特別講演では、神戸大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長の矢野育子先生から「今、薬剤師の覚悟が問われている：キーワードは連携」と題して講演いただきました。講演のなかで、院外処方箋における疑義照会簡素化等のプロトコールとトレーシングレポートの運用、経口抗がん薬の適正使用に関する病診薬連携、外来患者に対する吸入指導、保険薬局向けポリファーマシー勉強会開催について紹介いただきました。「洞察力をもって新規業務に取りかかろう。その成果を論文として纏めること、目に見えるアウトカムを示していくことが非常に大事である。」という熱いメッセージをいただきました。

最後に、本シンポジウム開催にあたり日本医療薬学会、学会事務局ならびにご支援、ご協力いただきました全ての方に心より感謝申し上げます。